

親切

金屋中・2 伊嶋 友里

親切な行動とは、どのような行動のことを言うのだろうか。また、親切をされた人は、必ず嬉しい気持ちになるのだろうか。

私は、人口があまり多くない市に住んでいて、人と人との距離がとても近い。例えば、隣のおばさんは秋になるとたくさんの柿を、近所のおじいさんはお菓子を、おばあさんはみかんをくださる。道を歩いていて話しかけられることもめずらしくない。そんな場所なので、バスなどで席を譲ると必ず、

「ありがとねえ。えらいねえ。今、何歳。」
などとても感謝してくれる。

私は、親切とは、席を譲る、落とし物を拾う、荷物を運ぶなどのある程度決まった行動をすることだと思っていた。これをすればたいていの人は喜ぶし、感謝してくれる良い行動なんだと思っていた。また、人が喜んでいるところを見るのは嬉しいし、あまりいいところがない私の好きなところでもある。だから私は、今年の春の初めての東京旅行でとてもショックな思いをした。

私は新幹線を降りて駅の改札口に向かっていった。駅を歩く人は豊川駅とは比べものにならないくらいいて、歩くペースもとても速かった。私は、東京の人はせっかちだから「太陽は東から昇って西に沈む」なんて感じで覚えたな、などと考えながら改札口に向かっていった。するとそのとき、私と同じタイミングで列に並ぼうとしていた、私より少し年上のお姉さんがいた。私はいつものように、
「先、どうぞ。」

とゆずった。するとお姉さんは何も言わずに前に並んだ。嬉しそうな顔をするどころか、少し怒ったような顔をしていた。私は混乱し

ていた。私がやったことに何か悪いことはあったのだろうか。私がしたことと相手が怒ってしまうなんて、とても悲しい気持ちになった。だがだんだん怒りがわいてきた。私は悪いことをしてはいない。「ありがと」はなくてもいいが、怒った顔までしなくてもいいじゃないかと思った。

私は雷雲のような気持ちで電車に乗った。電車は予想どおり座るところは一つもなかった。私が立っていると、若いカップルが席をゆずってくださった。私は、東京にはこういう人たちもいるんだなと思って、雷雲に太陽がさしたような気持ちになった。けれど私はこのカップルにデートを楽しんでほしいと思ったので、にこやかに「いえいえ、どうぞ座ってください。」

と言った。すると、その二人は少し残念そうに座っていた。後から母に、

「勇気を出してゆずってくれたんだから、断ると嫌な気持ちになるよ。」

と言われ、私も親切のつもりでやったのと思った。あの二人も私も親切をしたのに、なぜか親切がぶつかり合ってお互い嫌な気持ちになってしまった。私はその理由が全くわからなかった。いつもなら「ありがと」と言われていたことが逆になってしまったことに、とてももやもやとした気持ちになっていた。そんな気持ちで旅行は終わった。

帰りの新幹線で、東京が悪いわけではないのだが、東京に対して、「もう一生東京には行かない。駅だってもっときれいで大きいのかと思ったのに、ぼろっつい教会みたいだった。京都駅の方がカッコいいし、きれい。もう首都は京都でいいと思うよ。」

と、京都生まれ、京都市育ちの父に話した。私はそれほど不愉快な気持ちだったのだ。

家に帰って東京の悪口を全部吐いて気持ちが落ち着き、東京での親切のすれ違いについて考えてみた。そして私は、母が昔、話して

くれたことや、小さいころ私が体験したことについて思い出した。

まず二つ目は母の体験についてだ。母はそんなに甘い物を食べるのが好きではない。ある日、母の母、つまり祖母が母と一緒にレストランに行ったときのことだ。祖母は母に、

「ちよ、ちよ、ちよ、ちよとでいいからこれ食べて。」

とスイーツをあげたそう。祖母からしたらおいしいものを食べてほしいという思いがあつたのだろう。でも母はとても迷惑だと思つたそう。

二つ目は実際に私が体験したもの。私は母の実家、九州に帰っていた。駅で新幹線から降りてエスカレーターに乗っていたら、いきなり、知らないおじさんが走って追いかけてきた。私たちが走つても追いかけてくるのでとても怖かった。おじさんは私たちに追いつくと、私の妹に、

「妹さんのスカートがちよつとめくれてたから、それだと危ないと思つて教えにきたんだよ。」

と言つた。私はとても気持ち悪い人だと思い、ぞつとしていたが、母は、九州では人が間違つたことをしていたら教えにくる人が多い、と言つていた。

この二つの話から私が気づいたことは、どの人も親切でやっているとでも思ひやりが欠けているということだ。思いやりとは、相手の気持ちを察したり、寄り添う気持ちのことだ。そしてこの思いやりをもつてした行動が親切をするということであり、人を笑顔にできる行動だと気づいた。今までの私はたまたま親切かと思うことをやったら感謝されてきたけれど、今回の東京旅行では、年上のお姉さんは、自分より年下の人にゆずられて恥ずかしいと思ったのかもしれないし、東京は人との距離をとる文化のような習慣のようなものがあるので、私はそれに合わせなければならなかったと思う。電車では二人の気持ちはきつと、喜んで座ってくれたらいいな、だつたと思う。だが私は、その気持ちを読み取らず断つてしまった。

思いやりとは、人、地域によって表現が全く違う。私は、その人や地域の文化に合わせて思いやりのある行動、「親切」をしたい。